

教員名	秋山 光文 (AKIYAMA Terufumi)
所 属	文教育学部人文科学科哲学講座
学 位	文学修士 (1974 早稲田大学)
職 名	教授
URL / E-mail	akiyama.terufumi@ocha.ac.jp

◆研究キーワード

形象分析学 / 美術史学 / インド / 仏教美術 / 図像学

◆主要業績

総数 (3) 件

- ・秋山光文「インド仏教美術の諸相」『東洋の美術』(芸術学フォーラム 4)
(山岡泰造・肥塚隆・曾布川寛(編)) 2-20 勁草書房(2006)
- ・秋山光文、宮治昭、小寺武久、立川武蔵ら 10 名、
報告書『古代インドにおける宗教的造形の諸相—寺院建築と美術の成立と展開—』全 2 巻、
(研究課題番号 14251001, 平成 14~17 年度科学研究費補助金費 基盤研究 A, 研究代表者: 宮治 昭)
分担執筆: 遺跡・博物館 (Tara, Sirpur, Tigowa, Kondane caves, Ramvan Museum など全 12 項目) 名古屋大学(2006)
- ・秋山光文監修『アジア・オセアニア 4』(NHK 世界遺産 100 第 10 巻) 小学館(2006)

◆研究内容

1. 古代インドにおける仏教美術の展開を、仏塔(ストゥーパ)の荘厳という観点から捉え、地域的・歴史的展開を仏教史上における興隆期(仏教文化の誕生・大乘仏教の成立・密教文化の成立)ごとに概観し、それぞれの特質について考察することを試みている。このため、現地調査は欠くことができず、平成 17 年度まで 5 年間にわたり、名古屋大学宮治昭氏を研究代表者とする科学研究費補助金による総合調査に加わり、中インド地方の仏教寺院遺跡・博物館および西デカン地方の仏教石窟寺院を調査した。この調査において、これまで発表されることのなかったチャッティスガル地方の仏教寺院(とりわけストゥーパ)、及び西デカン地方のみ紹介仏教石窟寺院に施された浮彫・丸彫彫刻を調査することが可能となった。その成果の一部を研究業績 1 および 2 として発表した。

◆教育内容

1. 形象分析学(学部)
初學者のために美術史研究の方法論について講義した(形象分析学基礎論)。歴史資料を講読しながら、奈良時代におけるわが国の仏教美術史に関する基礎知識を養成した(形象分析学演習)。
2. 美術史(学部)
美術史学研究の方法論を修得する初歩演習を開講した(形象分析学調査演習)。
3. 学部専門教育
卒業論文作成のための研究指導(美術史学研究指導)を開講したほか、史料解読と研究発表のための特別演習(形象分析学演習)を開講した。
4. 大学院専門教育
インド仏教美術の特質について講じる講義科目(東洋美術史特論)のほか、外国語文献の講読と研究指導のための演習科目(東洋美術史演習)を開講した。
5. 特別研究指導
学部 4 年次生(4 名)、博士課程院生(M2: 1 名、研究生 2 名)に対して、卒業論文及び修士論文のテーマ設定、文献収集、学会発表に関する研究指導を行った。

◆Research Pursuits

1. The development of Indian Buddhist art consists with three different phases, ie the early Buddhism, the Mahayana Buddhism, Vajrayana Buddhism. The aim of my research is to verify the characteristic of Buddhist sculptures above three phases mainly attached on Stupas, the most important worship object for early Buddhists. For that purpose, I cooperated with Prof. Akira Miyaji, Nagoya Univ. and his research members to visit the Buddhist sites in the Middle India as well as various cave temples in the Western Deccan. A part of results reported above mentioned papers.

◆Educational Pursuits

1. Form Analysis (undergraduate students)
Introductory lecture of methodology of art history for beginners. Introductory seminar to read historical records and investigate the early Japanese Buddhist art in the Nara period.
2. Art History (undergraduate students)
Introductory seminar to master the research study in the art history.
3. Specialty for the undergraduates
Determination of each research theme and the supervising of research technique.
4. Lecture and Seminar (graduate course students)
Lecture on the development of Indian Buddhist art and the conception in the East Asia.
5. Supervising of the graduate students
Determination of each research theme and special seminar for the presentation.

◆共同研究例

平成 14 年度からスタートした東京大学東洋文化研究所の科研プロジェクト（研究代表者：小川裕充教授）に参加し、「美術に即した文化的・国家的自己同一性の追求・形成の研究ー前アジアから全世界へー」（平成 16～19, 19～23 年度科学研究費補助金基盤研究 S）の研究分担者として南アジア（インド、パキスタン）における美術と国家意識との相関について調査を続けている。

◆共同研究可能テーマ

- ・インドにおける民間信仰と仏教美術
- ・インド人の国家意識と造形様式の形成

◆将来の研究計画・研究の展望

1. インドから展開する仏教美術がアジア各地で如何に受容され変質を遂げたかを、それぞれの地域における国家意識の変化とともに実証する。
2. 仏教図像の成立と展開について、地域性と民族性から解明する。

◆研究の実用化（実用化済のテーマ）

1. 古代仏教説話図像の成立と展開

◆受験生等へのメッセージ

あらゆる事象を他から与えられる情報のみによって判断するのではなく、自ら確認することによって実証する姿勢を貫くことであろう。溢れるばかりの情報に取り巻かれて生活する現代の我々にとって、真実とは何か、真理とは何かということを常に問いかけてほしい。このために、現地に赴いて多くの資料を収集することを自ら習慣づけてもらいたい。